

時代と共に変化するお客さまの「しあわせ」に寄り添い続けてきた丸井グループですが、2019年に発表した「VISION 2050」を検討する中でさまざまな課題が抽出されました。気候変動やエネルギーシフトはもちろん、「これまで見過ごされてきた人」や「孤立」、将来世代の「しあわせ」です。これらを具体的に、2030年のめざす姿として提示したものが「インパクト」です。中には、一人ひとりの「好き」や「個性」を応援することが含まれています。一見すると不思議な光景かもしれませんが、「しあわせ」や

Well-beingを重視する丸井グループから見ると立派な社会課題であり、社会貢献にもなり得る欠かせないテーマです。

社会課題を解決するビジネスは、「アジャイル開発」と非常に近いものがあります。初めから高い完成度をめざすのではなく、仮説を立て少しでも早く実装してユーザーや社会からフィードバックを得て改良する。より良い姿をめざして永遠に未完状態となるプロセスこそが、「社会課題解決企業」には求められます。これを実現するための「企業文化2.0」は、失敗を許容し挑

戦を奨励する「社会実験企業」として始動しました。もちろん丸井グループは営利企業のため、社会課題を解決することで結果としてインパクトの実現だけでなく利益も同時達成するビジネスを構築します。これが、従来の「成長か還元か」という二項対立を乗り越え、「高成長×高還元」を両立する新たな経営のあり方です。丸井グループはやっと「アセット×社会課題解決×共創＝成長×Well-being(GDW)」という方程式を実践するスタートラインに立ったといえます。

この次のセクションでご紹介する社会実験のケースは、まだイノベーションの小さな「芽」にすぎませんが、インパクトと利益という「双葉」をつけています。私たちは、こうした芽を共創を通じて増やし、成長させることで大きな樹に育て上げ、たくさんの果実を実らせることで「社会課題解決企業」としてミッション・ビジョン・インパクトを実現します。



インパクト達成に向けた道筋やロジックモデルは「IMPACT BOOK 2023」へ

丸井グループがめざす姿 「社会課題解決企業」



- 環境**
 - 気候変動と資源枯渇／サーキュラーエコノミー
 - 再生可能エネルギーへのシフト
 - 生態系の破壊
- 経済**
 - 貧困や飢餓
 - アジアで拡大する中間所得層
 - IoTの普及、AIによる支配
- 地域・社会**
 - これまで見過ごされてきた人
 - 先進国で拡大する「孤立」
 - 世界中の国家間のつながりと分断

